

お 泉 水

1991年3月30日

■福井地区大学図書館協議会研修会

8月23日、福井大学附属図書館が当番校となり7大学（福井高専を含む）30名の参加を得て、金沢工業大学ライブラリーセンターの施設見学および図書館業務の電算化についての研修を行い、盛会のうちに終了した。

（福井大学附属図書館 井上 章）

■平成2年度全国図書館大会

10月24日～26日の3日間、静岡市で「90年代の図書館を考える—図書館法制定40周年を迎えて—」をテーマに第76回全国図書館大会が開催された。参加者は1,635名で、本県からは11名が参加した。

第1日目は開会式・全体会があり、基調報告・記念シンポジウムが行われ、これからの図書館像・司書の資質等が議論された。第2日目は11分科会に分かれて各テーマにそって事例発表・研究討議がなされた。第3日目は分科会の経過・結果等の報告があり全体討議をして盛会のうちに閉会式をむかえ、来年の徳島大会への参加を呼びかけて閉会した。

（鯖江市図書館 葛野 順子）

■平成2年度全国公共図書館研究会

◇奉仕部門

10月18・19日の両日、福井市のフェニックス・プラザで「明日をひらく図書館奉仕」を研究テーマに、平成2年度全国公共図書館奉仕部門研究会を開催した。参加者は308名で、本県からは108名が出席した。

研究内容は「貸出しの進展をめざして」「都道府県立図書館は何をなすべきか」で、事例発表と研究討議が行われた。

なお、記念講演は「越路の紫式部」（清水好子氏・関西大学教授）であった。

（事務局）

◇整理部門

9月13・14日の両日、長野県更級郡上山田町で「整理業務の現状と方向について」を研究テーマに、平成2年度全国公共図書館整理部門研究会が開催された。参加者は256名で、本県からは5名が参加した。

研究内容は、「オンライン目録における共同目録作業」「所沢市立図書館の電算処理の10年」「新居町立図書館の整理業務」「図書館業務の電算化そしてレベルアップ」で、事例発表と研究討議が行われた。

なお、記念講演は「書誌情報の組み立てと利用」（植田喜久次氏・浦和市教育委員会）であった。

（鯖江市図書館 前 寿則）

◇参考事務分科会

9月20・21日の両日、盛岡市で「生涯学習における参考事務の新たな資料構築をめざして」を研究テーマに平成2

年度全国公共図書館参考事務研究会が開催された。参加者は208名で、本県からは2名が参加した。

研究内容は「北方資料室の資料構成」「地元産業の資料の収集と活用」「ネットワークシステムによる参考事務の効率化」「企業の情報センターにおけるニューメディアの活用」で、事例発表と研究討議が行われた。

なお、記念講演は「みちのくの面白さ」（高橋克彦氏・作家）であった。（福井県立図書館若狭分館 出雲 俊樹）

◇児童図書館分科会

平成3年1月17・18日の両日、鹿児島市で「すべての子どもに読書の喜びを一現状と課題—」をテーマに、平成2年度児童図書館研究会が開催された。参加者は639名で本県からは1名が参加した。

研究内容は「児童に対する図書館奉仕の方向」「子どもと本を結ぶ活動」「図書館と地域・学校との連携」「家庭での読書の役割」の4分科会で、名古屋鶴舞・千葉県立・大宰府市民・東京子ども等8館の事例発表があり研究討議が行われた。

なお、記念講演は「子どもと読書—子どもはみんな本が好き—」（中川李枝子氏・児童文学者）であった。

（福井市立図書館 中山 真由美）

■東海北陸地区公共図書館研究会

9月27・28日の両日、石川県立図書館で「これからの図書館職員研修はどうあるべきか」を研究テーマに、平成2年度東海北陸地区公共図書館研究会が開催された。参加者は127名で、本県からは9名が参加した。

研究内容は「名古屋市の新任・初級研修」「より充実した児童奉仕をめざして—石川県児童図書研究会のあゆみ—」「参考業務を見直す」「コンピュータの導入と研修—よりよく活用するために—」で、事例発表と研究討議が行われた。

なお、記念講演は「実践に見る—これからの公共図書館職員の役割と課題」（関根達雄氏・藤沢市総合市民図書館長）であった。

（事務局）

■日本図書館協会東海北陸地区地方講習会

6月29日、福井県立図書館で「全ての人にひらかれた図書館を」を研究テーマに、平成2年度日本図書館協会東海北陸地区地方講習会を開催した。参加者は54名で、本県からは37名が参加した。

研究内容は「福井県立図書館点字図書室の業務の現状と課題」をテーマに事例発表と質疑応答があり、その後「図書館利用にハンディキャップを持つ人々のサービスを考える」をテーマに研究討議を行った。

なお、記念講演は「国際障害者年10年を迎えて」（拝田真紹氏・大阪府松原市民松原図書館長）であった。（事務局）

コンピュータ時代

福井市立図書館

みどり図書館とのネットワークシステムについて

福井市にとって二つめの図書館となる市立みどり図書館は、平成4年3月竣工、8月開館を目指して建設中であるが、この図書館と文京の福井市立図書館とのネットワークシステムの概要について述べてみる。

みどり図書館は、福井運動公園、及び西部緑道の近くにあり、駐車場が現在に比べ整備されるので、土日曜日には現在より多くの利用があると想定される。このため、ネットワークシステムを構築するに当たっては、貸出処理の速さ、即ちレスポンスを最優先で考えなければならない。

レスポンスが悪い原因としては、機器構成、図書館システム、通信回線に起因する場合の三つが考えられる。

機器構成の選択については、視点が変わると順位が変わってくる。レスポンスからみた順位は、①分散処理型②集中処理型③水平連携型となるが、費用からみると、①集中処理型②水平連携型③分散処理型の順に高くなっていく。

図書館システムについては、パッケージシステムを使用している関係上、どうしようもない。しかし、システムが開発されてから数年を経過しており、このことについての配慮がなされていると考えられる。

通信回線については、回線スピードが300b/sから6Mb/s程度まで、月額使用料も数千円から数十万円以上まであり、どれを選択するかが問題となる。要するにスピードと費用とのバランスの見極めが大事となる。回線の種類についても、専用回線にするか、公衆回線にするか等の選択があるが、個人情報保護とかデータ破壊の危惧を考慮しなければならない。

また、本館での1時間あたりの最高貸出冊数は、端末機

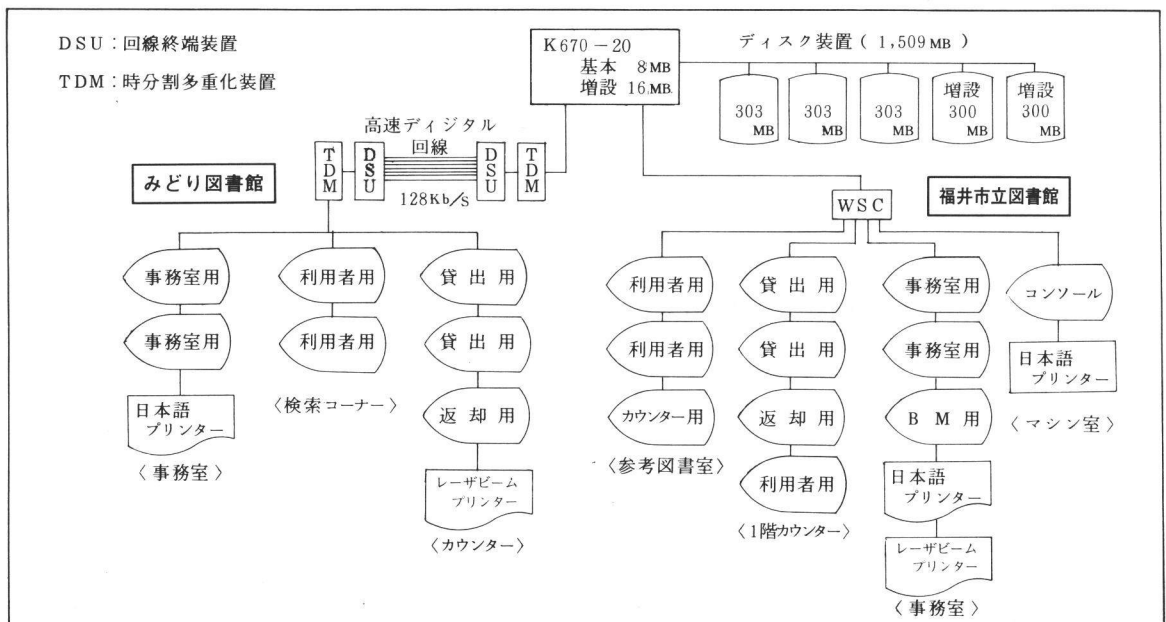
3台をフル稼働して約1,000冊程度なので、これを超える利用がある場合には、どのような優秀な回線を使用しても、お手挙げとなる。このような場合は端末機の台数を増やすしか方法がない。

以上のことを考慮にいれ、システム構成を試みたのが下図である。特徴としては、通信回線として専用回線のスーパーデジタル(128kb/s)を使用することである。これにより各端末機全てが9,600b/s相当のスピードが保証される。このスピードは、金沢市立図書館の城北分館を見学した感じでは、本館でのコンピュータ直結処理に比べてやや遅いかなという程度のものであり、十分使用に耐えるものである。月額使用料は87,000円と高額であるが、拡張性があり将来端末機を増設した場合にも、追加費用負担が軽くて済むことが利点である。

集中処理型ネットワークシステムを選んだ理由は、端末機の台数が20台位ならば1台のコンピュータで負荷に耐えうると判断したこと、できるかぎり低コストで運用したいことのほか、これ以外のシステムによるパッケージが完成されていないこと等があげられる。

このシステムが目論見どおり稼働すれば、両館合わせた書誌情報がいずれの館でも検索でき、貸出・返却をどちらの館でもできるようになる。あとは図書館の物流システムをいかに効率よく、且つ迅速に利用者の要求に応えられるようにするかの問題だけになる。このことについては、今後1年をかけて検討する予定である。

(福井市立図書館 田中 利憲)



談 話 室

附属図書館から情報センターへ

大学の附属図書館はこれまで、そのほとんどが学内の人を対象とした閲覧や学内用の資料の保存などの業務を行ってきた。けれども情報のネットワークを推進する時代の潮流のなかにあつて、学外の人にもこれを利用する機会を与えてほしいという声のあるのも事実である。県立短大の附属図書館にある小倉文庫なども、これを利用できないかという問い合わせが県の内外からよせられている。今後は附属図書館に対して、情報センターのように一般に広く利用できるようなサービスを期待する声が増え高まっていくことだろう。

(福井県立短期大学附属図書館 中村 英一)

見えない本

彼は一体何者なのか。目が見えないのは真か。

テレビも見るしマンガも見る。人を避けて歩く。感覚も鋭い。知識欲も旺盛。

しかし、残念ながら読みたい点字本は手に入りにくい。待つて当然、なくて普通。と、冷めていた彼がオモチャにしていたすみ字(活字)本を開き始めた。彼の目は真剣だ。次々と本を持ってきては「何の本ですか」「どんな写真ですか」と頁をめくる……。一体、何と読むというのだ？

彼は何者だろう。どんな目を持っているのだろう。

彼にとって、本は、真の『本』ではないだろうか。

(県立盲学校 山内 裕美)

「なかよし号」と共に8年

移動図書館「なかよし号」とのお付き合いも今年で8年目。顔なじみになったおじいちゃん、おばあちゃん、子供達に好みの本を持って行くと「今日は、どんな本を持ってこられたかな、ああ、これこれ、この本を一度読んでみたいと思っていたのや、よう持って来てくれた。ありがとう」と何度もお礼を言って帰っていかれる後姿に、心のふれあいを感じるとともに、この仕事のやりがいを感じる今日この頃です。今、図書館では機械化によるスピード化が進む中、忘れがちな部分を守っている様に思います。今後も心のふれあいをモットーに一人でも多くの方に素敵な本との出会いをして頂ける様、頑張りたいと思います。

(敦賀市立図書館 原 智恵子)

本との出会い

私は特別本が好きなほうではない。しかし、そんな私にもつづけて読んでいる小説がある。ただ今、35巻目で100巻までつづくというその小説は、特別考えさせられるようなものではないが、読んでいてとても楽しい。その本に出会ったのは、図書館でも書店でもなく姉の部屋であった。暇だったので姉の部屋に並べてあった1冊の小説をパラパラと見たつもりだった。しかし、いつのまにか時間を忘れて没頭して読んでいた。それが高校2年の時だった。それからは姉にかわって私が書店に行ってその小説を買って読むようになった。我が図書館も、気楽に入れて明るい、そしていろんな本と出会う図書館にできたらと思う。

(美山町立図書館 山岸 達明)

そして、そして、

また、これ借りるの うん、これのここが好きなの

大きくなったら何になりたい? ー図書館の人

はい、おしまい! ーかわいそうな話や うん、かわい

そうや ーかわいそう

チョウとガはどう違うか? ーちょっと待っててね

今、調べるから……

今度、新しいお母さんが来るんだ ーよかったねーうん!

子どもたちといるととても楽しい。そして時々こわい。

自分の言葉の重みに気づくから……。

そして、そして、心がどんどん素直になっていくような気がする。

(坂井町立図書館 浅田 春美)

条例図書館

わが町の図書館設置条例が施行されて、今年の7月で10年を迎える。その業務内容を見れば7項目あるが、「図書の閲覧と貸出し」この1項目だけが杠ろうじて機能しているにすぎない。また、蔵書も少なく、施設もなく中央公民館の1室を間借りしているのが現状である。条例のみの町立図書館で、実際には公民館図書室である。

しかし、そうはいつでも、わが町で唯一の図書館であることには違いない。春休み、夏休みになると子どもたちでいっぱいになる。嬉しいような、そして誰かがいっていたように雑巾を持ってついて歩きたいような……。

(越前町立図書館 黒田 三博)

福井県図書館関係職員研修会

12月5日、福井県立図書館で、平成2年度福井県図書館関係職員研修会を開催した。

講師に仁愛女子短期大学教授で同大学附属図書館長をつとめる清水英男氏をお迎えして、「生涯学習時代と図書館の役割・課題」と題した講演会を開催した。清水氏は教育史・英語史を専門とされて社会教育関係に精通され、また、優れた国際感覚を持っておられる方で、「『生涯教育』の意義・理念」「我が国の生涯教育（学習）の流れ・考え方・取り組みについての系譜とその問題点」「図書館の役割・課題」という3項目について、国外での実例をも示しながら理論的に話を進められ、参加者も熱心に耳を傾けていた。

引き続き「福井県図書館協会の活動について考えよう」をテーマに研究討議を行った。ここでは異口同音にもっと自由な雰囲気での職員の交流の場がほしいとの意見が出された。事務局としても昨年度より講演の後に交流の場を設けてきた。しかし、職員がお互いにもっと打ち溶けていれば館種が違っていてもお互いの事情などもわかり、対応しやすいのではないかと。そのためには（お茶でも飲みながら）ざっくばらんに話し合える場を設けてほしいとのことであった。また、会費についても考える時期に来たのではないかと意見が出された。その他、敦賀女子短期大学より公共図書館への資料の貸出しについて他の大学（附属）図書館に質問が出たが、出席していた福井大学・福井工業大学・福井医科大学・仁愛女子短期大学の各（附属）図書館は

■日本図書館協会の会費の値上げについて

	現 行	改 訂
個人会員	6,000円	7,000円
施設会員 A	35,000円	40,000円
〃 B	25,000円	29,000円
〃 C	15,000円	18,000円
賛助会員（1口）	10,000円	現行どおり

■平成3年度研究集会および研修会（予定）

区 分	開催地	期 日
全国大会	徳島県徳島市	平成3年10月22～24日
整理部門	神奈川県横浜市	〃 9月12・13日
奉仕部門	奈良県奈良市	〃 9月26・27日
移動図書館協働事業分科会	栃木県宇都宮市	〃 10月31日～11月1日
東海北陸地区公共図書館研究集会	愛知県	未 定
日本図書館協会地方講習会	岐阜県	未 定
全国視聴覚教育研究大会（全視連）	福井県福井市	平成3年10月31日～11月1日
東海北陸地区視聴覚ライブラリー研究協議会	三重県四日市市	〃 8月下旬

いづれも、依頼があれば貸出しすると回答した。また、日本図書館協会の個人・施設会員について、福井県図書館協会として未加入の各館・各職員に入会を勧めていくことに決定した。

県内図書館界の動き

◇コンピュータの導入

福井市立図書館では蔵書データ（約190,000冊）の入力と点検を平成元年12月末に終え、平成2年2月1日から試験稼働に入った。県内の公共図書館では初の本格的なコンピュータの導入である。また、これに伴い貸出冊数を今までの1人3冊から10冊にした。

なお、4月より本稼働に入っており、今後は福井市立みどり図書館（平成4年8月開館予定）とも結んで利用者へのサービス向上を図っていく。

◇移動図書館の運行開始

小浜市立図書館は10月16日から移動図書館の運行を開始した。愛称は市民から募集し、「つつじ号」に決定した。小説や絵本等約1,500冊を積載し、図書館より1.5km以上離れた地域を12コースに分けて月1回ずつ廻る。貸出冊数は1人3冊、貸出期間は1ヵ月である。

なお、移動図書館用図書として10,000冊を備える予定である。

これで、県内の移動図書館は、福井市立図書館・敦賀市立図書館・三国町立図書館・永平寺町立図書館に加えて5館となった。



事務局通信

今年度は「全国公共図書館奉仕部門研究集会」と「日本図書館協会東海北陸地区地方講習会」が福井で開催されました。会員のみなさまには大変お世話になり、ありがとうございました。

また、御多忙中にもかかわらず、本誌に御寄稿賜りましたみなさま、まことにありがとうございました。心から厚くお礼申し上げます。（事務局）